



道路都市課



苦難乗り越え、 鳥取県庁で働く

大川篤志さん(鳥取県鳥取地方県土整備局)

写真・文/小山博孝



大川篤志さん。2003年4月鳥取県庁入庁。「車いすですから、はじめから福祉関係の職場に配属されるかと思っていました。土木関係の局なので驚きましたが、バリアフリーを進める局でもあるわけですから、やりがいがあります」



鳥取県鳥取地方県土整備局
〒680-0061 鳥取市立川町6-176 鳥取県東部総合事務所3階
TEL 0857-20-3591 FAX 0857-20-3598



ハンディを乗り越え、経済学博士号を取得した。学位記授与式の後、後輩に車いすごと胴上げされ、祝福された（2003年3月、岡山大学で）〈写真提供：山陽新聞社〉

朝、県の事務所に車いすで青年が出動してきた。「おはようございます」とあいさつをかわしながら自分のデスクに向かい、仕事の準備を始めた。昨年四月、鳥取県の職員となった大川篤志さん（三〇歳）だ。鳥取市に生まれ育った大川さんは、高校時代から体操部員として活躍し、岡山大学経済学部に進学してからも、体操部で練習に励んでいた。

三年生になったばかりの四月、跳馬の練習中に頭から転落し、頸椎損傷の大けがを負った。入院・リハビリの生活を一年近く送ったが、胸から下と両手首から先がほとんど動かなくなってしまった。

一年後、車いすで復学。

「以前は体操中心の生活で、授業にあまり出なかった」という大川さん。復学してから勉学に励み、大学卒業後は大学院（博士課程文化科学研究科）に進み、日本経済史の研究論文で、経済学博士号を取得した。

この間、手首でパソコンを操作する技術を習得したり、地域のバリアフリー化のために車いすの目線からさまざまなアドバイスをしたりした。

働く場があるかどうか悩んだこともあったが、鳥取の実家から通勤も可能な県職員をめざした。無事採用された大川さんは、鳥取県鳥取地方県土整備局総務課に配属され、地方公務員としての生活が始まった。

大川さんの勤務する局は、道路、河川、公園、住宅などの設計・建設・管理等を担当する部署。大川さんは現在、それらに携わる職員の旅費・時間外手当等の計算・支払い手続き等の事務処理を担当している。

「仕事ももてるのは、うれしい。これから、さまざまな経験をして多くのことを学び、できれば将来は、福祉にもかかわってみたい」と、行政マンとして夢いっぱいだ。



朝、自宅から出勤



落下防止に、伸縮自在の鎖をつけた車の鍵



車いすで生活できるように、自宅を改造



指が動かない大川さんは、手首を使ってパソコンを操作し、仕事を進める



打ち合わせする大川さん



大川さんの働く職場



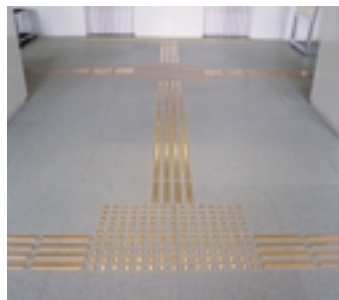
「大川さんに、どのように仕事をしてもらおうか考えました。書類の決済などの電子化を進めていきましたので、パソコンのLANの中で処理できる今の仕事をしてもらっています。ドアを自動開閉式にするなど、環境の整備はもちろんです。条例やシステムを勉強してもらって、将来に生かしてほしい」という山根副局長兼総務課長（左）の期待は大きい



大川さんの職場の入口は自動ドアに



庁舎内の障害者用駐車場



点字ブロック



スロープ



男女別の障害者向けトイレ



昼休みに庁舎内の食堂で、同僚たちとお茶を楽しむ